

事業名	平成 29 年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 『輪島ふぐ』をブランド化するための徹底分析	
実施主体	輪島市	
活動形態	活動場所	輪島市、金沢市
	活動人数	金沢星稜大学 1 名、北陸大学 1 名、奈良県立大学 1 名、輪島市観光課職員 2 名 計 5 名
	期間	平成 29 年 8 月～10 月（延べ 13 日間）
活動内容	<p><背景・課題></p> <p>石川県は天然フグ類漁獲量全国 1 位を記録するほど、高いフグの水揚げ量を誇る。中でも輪島市は、市町村別の漁獲量で 5 年連続日本一に輝く。輪島で獲れたフグは、「輪島ふぐ」と命名してブランド化を図っており、観光資源としての活用も期待されている。この取り組みでは、輪島の豊かな食文化をテーマに「輪島の食はうまい!」を PR して誘客を展開する第 1 弾として、「輪島ふぐ」のブランド化推進のためのマーケティング調査、分析を行う。</p> <p><活動概要></p> <p>市場調査を行い、全国のふぐの一般的なイメージや旅の目的として選ばれやすい項目、石川県に対するイメージ、食べたいもののランキングなどを調べた。それにより、食での誘客は魚介類より肉の方が勝っていること、全国的にフグの「ご当地」は山口県の印象が強いことなどが分かった。さらに、石川県の味覚としてはのどぐろや冬が旬のブリ、牡蠣が有名で、能登ふぐの強力なライバルの存在が明らかになった。併せて、輪島市内では、フグに対して干物に調理する以外の認識が薄いことも分かった。ただ、漁協が売り込みに対して積極的であったり、輪島はフグの水揚げ日本一であるという統計に基づいた前向きなデータも集めることができた。</p> <p>さらに、フグ食の競争地である下関、萩、大坂、若狭のフグ料理提供店に、客層や特徴のある取り組みを電話で聞き取り調査し、輪島ふぐに取り入れられるポイントを探った。また、金沢駅や金沢市内のスーパーマーケットの街頭で、県内外の 20 歳以上の男女 170 人にアンケート調査を実施。外食の頻度や誰と行くか、輪島に対してのイメージやフグ料理などについて尋ね、意見をまとめた。</p> <p><活動成果></p> <p>輪島ふぐのブランド化を進める「能登半島・輪島わのしま食楽部」の部会に対し、マーケティング結果と今後の推進活動へ 4 つの提案を行った。ブランド化推進の対策として、1 つ目は気軽に輪島ふぐを食べてもらえるように、金沢の飲食店での取扱量を増やし、各店舗でオリジナルメニューを提供することを挙げた。メニューには「輪島ふぐ」の名称と、「天然」「新鮮」といった表記を加えてもらい、アピールすることも訴えた。2 つ目は、地元情報誌に掲載し、「輪島ふぐ」の認知度アップを図ること。3 つ目はふぐ料理といえば、一</p>	

	<p>一般的に「てっさ」のイメージが強いことから、コース料理等でてっさを提供できる体制を整えること。4つ目は、アンケート調査で、県内の女性の約8割が伝統工芸に興味があると答えたことから、消費の主役である女性の心をつかむため、コースで使用する食器に輪島塗を取り入れることを薦めた。</p>
--	---

事業名	平成 29 年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「U・I ターン希望者に対する市内企業の魅力発信！」	
実施主体	珠洲市	
活動形態	活動場所	珠洲市
	活動人数	金沢大学 2 名、金沢星稜大学 3 名、珠洲市産業振興課、同企画財政課の職員 3 名 計 8 名
	期間	平成 29 年 8 月～10 月（延べ 11 日間）
活動内容	<p><課題></p> <p>珠洲市内の企業が求人募集を展開している一方で、珠洲市内への就職希望者にその場が伝わっていないというミスマッチが発生している。そこで、珠洲市が管理する「珠洲おしごとナビ」の改善点を提案し、企業の魅力を PR するための動画制作を行って情報発信に取り組む。</p> <p><活動概要></p> <p>「珠洲おしごとナビ」の問題点を洗い出し、改善点を提案。企業 PR 動画をつくる 5 社（谷口建設、メルヘン日進堂、日置之国、奥能登塩田村、サンユークス）を決め、各社へのヒアリングを行って企業が伝えたい情報と就職希望者が求めている情報を考察し、すり合わせる。</p> <p>取材撮影のポイント及びノウハウについて、金沢大学 宇野特任教授、北陸放送株式会社 室プロデューサーから講義の受け、取材撮影イメージの明確化を図った。また、ロケーションハンティングを実施して内容やメッセージを整理し、絵コンテを作成した。取材撮影を実施し、約 3 分の動画にまとめた。</p> <p>撮影した動画を改めて室プロデューサーに見てもらい、修正点・不足点についてアドバイスを受けた。</p> <p><活動成果></p> <p>活動報告会で、作成した企業 PR 動画を発表した。そこで指摘を受けた部分について修正し、取材撮影企業への内容確認を依頼。許可を得た後、「珠洲おしごとナビ」及び YOUTUBE で公開し、情報を発信した。</p>	

事業名	平成 29 年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「移住者にとって魅力あるまちづくり！」（穴水町）	
実施主体	穴水町	
活動形態	活動場所	穴水町、七尾市、能登町
	活動人数	金沢大学地域創造学類 1 名、金沢大学人文学類 1 名、石川県立大学食品科学科 1 名、穴水町地域おこし協力隊 1 名、穴水町政策調整課の職員 2 名 計 6 人
	期間	平成 29 年 7 月～10 月（延べ 12 日間）
活動内容	<p><背景・課題></p> <p>人口減少が著しい穴水町において、移住定住人口の拡大を目標に、商店街の活性化、空き家の利活用を図るための対策を検討する。そして子育て世帯移住の増加、空き家の情報を広く発信するための「空き家バンク」への登録喚起を促し、移住者受け入れの気運を醸成する。</p> <p><活動概要></p> <p>穴水町の地域情報を調べ、現地調査での住民へのヒアリングや散策などを通して空き家の利用状況や商店街の現状をリサーチした。さらに、住みたい田舎ランキング 1 位にも選ばれた「鳥取県岩美郡岩美町」や同じ奥能登に位置する能登町の空き家活用例なども調べた。</p> <p><活動成果></p> <p>穴水町はカキの養殖が盛んで、ボラ待ち櫓など観光スポットが多数ある魅力的な場所であるにも関わらず、移住者が住まいとして探し求める空き家については空き家情報バンクへの登録が少なく、公開している物件もわずかであることが分かった。</p> <p>住民への報告会で、町の空き家バンクの登録件数が、商店街周辺では 2 件にとどまっており、活用されていない現状を指摘した。さらに、食品を販売する店が少なく、人が足を向けるには難しい状況であることも課題として挙げた。空き家を利用した商店街活性化策として、カフェ経営や気軽に野菜を買うことができるプチマルシェ、世代を超えて人が集まることができるシアタールームの設置などを提案した。空き家バンクへの登録件数を増やすことで、移住者が移住先を決める選択肢を増やせば、移住者増加に伴って商店街の空き店舗解消にもつながり、好循環が期待できるとした。</p>	

事業名	平成 29 年度課題解決実証事業（奥能登チャレンジインターンシップ） 「町内企業の魅力を町内の若者へ伝える」（能登町）	
実施主体	能登町	
活動形態	活動場所	能登町内
	活動人数	金沢学院大学 1 名、金沢大学 1 名、金沢星稜大 1 名、 能登町企画財政課地域戦略推進室職員 2 名 計 5 名
	期間	平成 29 年 7 月～12 月（延べ 20 日間）
活動内容	<p><課題></p> <p>町内の若者が地域に根差した仕事の魅力を知らないままに町外へ進学することを防ぐため、学生が主体となって町内で働く人取材し、そこで体験したことを若者の視点、言葉で中高生に伝える。若者の地元企業に対する理解を深め、将来的な U ターン、I ターンを促す。</p> <p><活動概要></p> <p>事前の短期合宿で、地域の魅力や問題点を学び、元 TBS アナウンサーの下村健一氏の講義を受けるなどして、情報発信のための映像づくりの技術を学んだ。続いて、能登町に根差した仕事をリサーチし、天領庄屋中谷家（県有形文化財）、下平鮮魚店、のらび、養蜂農家の 4 カ所取材。仕事のやりがいや苦勞、地域との関わり合い、能登町への思いなどをヒアリングし、約 5 分の映像にまとめた。</p> <p><活動成果></p> <p>能都中学校、松波中学校、柳田中学校、小木中学校の町内 4 つの中学校で、授業形式で成果を発表した。その際、声のトーンや意見の引き出し方など細かいことにも意識を集中させた。中学生からは「魚を売るだけでなく、いろんな仕事に全力で取り組んでいる」「日本一の養蜂家を目指しているところがすごい」などの感想が寄せられた。中学生に能登町で働く人たちの思いを伝えたことで、楽しい能登町をつくるために何が必要なのかを共に考える機会となった。</p>	